

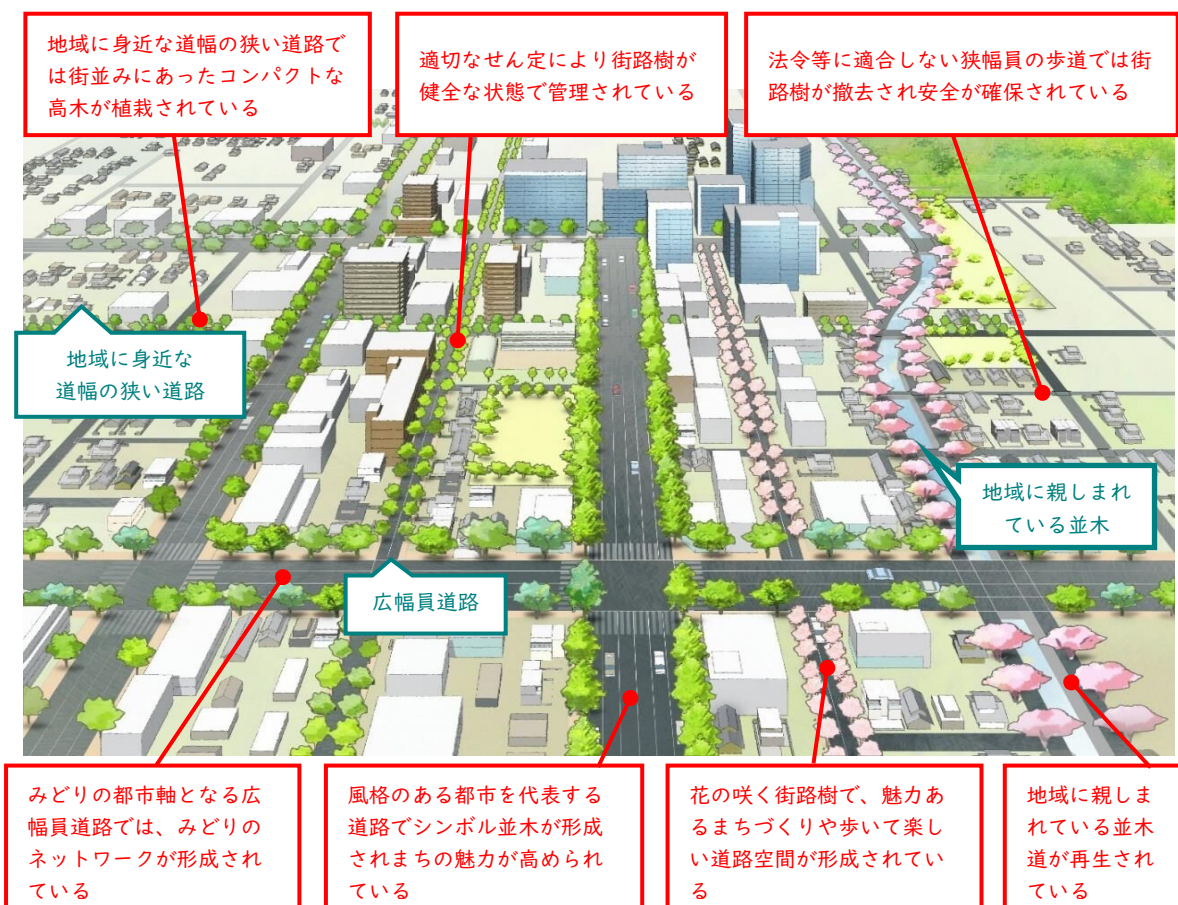
第3章 第2期街路樹再生なごやプラン

1 あるべき姿

街路樹は、新緑や花・紅葉などにより街並みに彩りを与え、木陰をつくり、ヒートアイランド現象を緩和するなど沿道の環境を改善したり、生き物の移動の場となり生物多様性を保全する機能や、交通を分離する機能、火事の延焼を防ぐなどのさまざまな機能があります。また、近年では、都市魅力を向上させたり、グリーンインフラなどの新たな機能も注目されています。

本市では、次世代へつなぐ持続可能な街路樹づくりを目指し、本プランを実行することで、道路空間との調和を保ち、機能や役割を十分に発揮できる健全な街路樹としていきます。また、街路樹により美しい道路景観を創出し都市空間の価値を向上させるとともに、市民・事業者等と共に育て、地域に愛される街路樹としていきます。

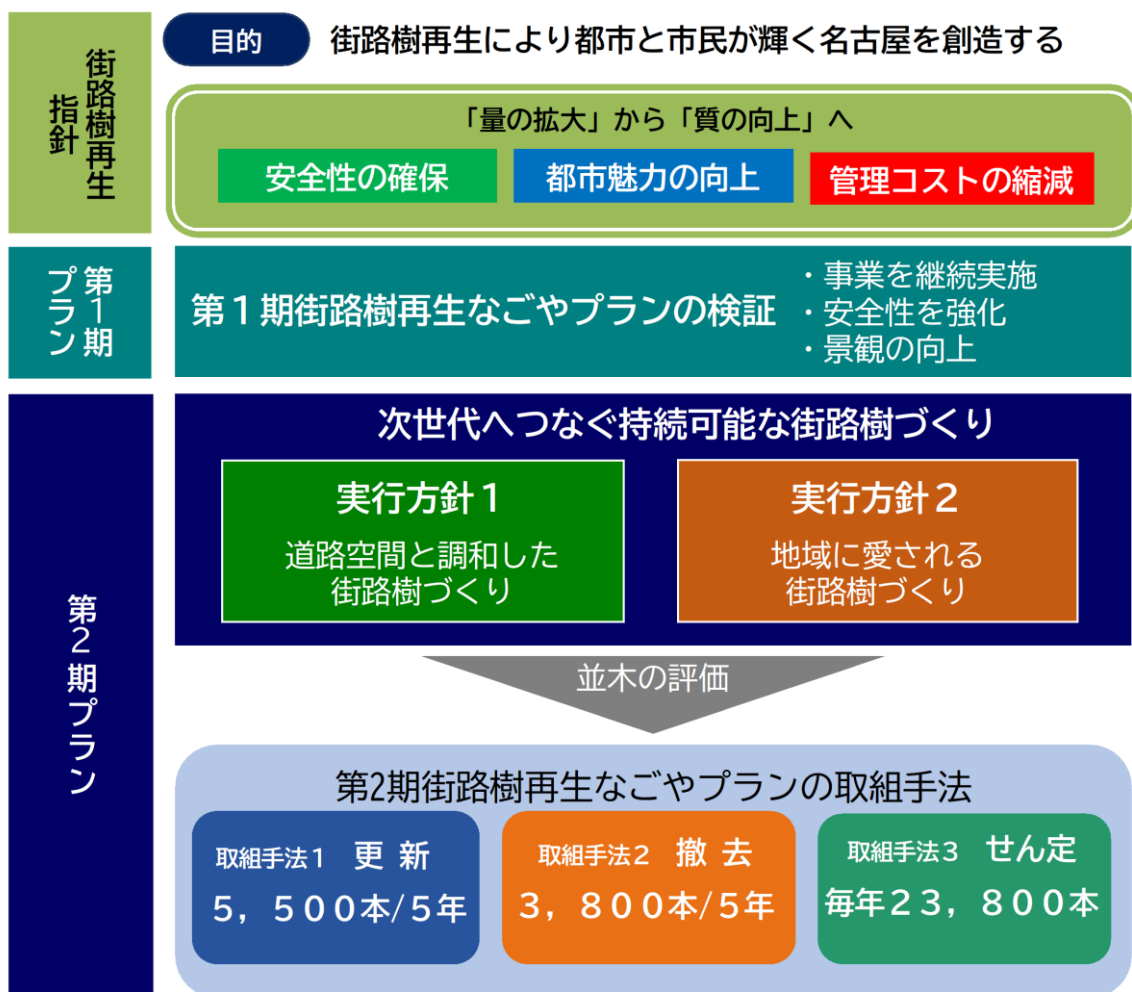
■ 街路樹再生の取り組みイメージ



2 方針

第1期プランで掲げた実行方針「道路空間と調和した街路樹づくり」「地域に愛される街路樹づくり」を継承し、果たすべき機能や役割が発揮できる健全な街路樹となるよう再生・保全・育成を図ります。

■ 第2期街路樹再生プランの概要



3 目指す効果

第2期プランでは、従来から行っていた巡視・点検の方法や頻度を見直し、事故リスクが高く課題の多い街路樹を早期に発見し、更新・撤去することで、道路空間と調和した健全な並木へと再生するとともに、誰もが安心して通行できるよう道路の安全性を確保します。

また、保全・育成すべき並木においては、樹種や地域の状況等を考慮してせん定等の維持管理を行うことにより、風格のある並木や地域の方々が親しみと誇りを持てる並木を形成し、都市魅力の向上や地域・市民に愛される街路樹づくりを目指します。

継続して街路樹の更新や撤去を行うことで、現在のせん定費用や、植え替え後の若木が成長するまでの期間のせん定費用が不要となることや、せん定頻度の少ない樹種に植え替えることによってせん定費用は抑制されるため、管理コストが縮減できると考えています。

■ 街路樹再生の効果

第2期街路樹再生なごやプランの効果

安全性の確保

- 更新・撤去・せん定による事故リスクの低減
- 誰もが安心して通行できる良好な歩道空間の確保
- 災害時の交通ネットワークの確保
- 道路空間と調和した健全な街路樹の育成

都市魅力の向上

- シンボル並木の形成による都市魅力の向上
- 美しい道路景観の創出
- 地域の方々が親しみと誇りを持てる並木づくり
- 魅力ある並木道の保全・育成

管理コストの縮減

- 更新・撤去による管理本数の適正化
- 更新・撤去によるせん定費用の抑制

■ 街路樹再生による効果のイメージ

安全性の確保



更新



更新による根上がりの解消
守山区県道田粉名古屋線



撤去



撤去による歩道空間の確保
中川区長良小本第1号線

都市魅力の向上



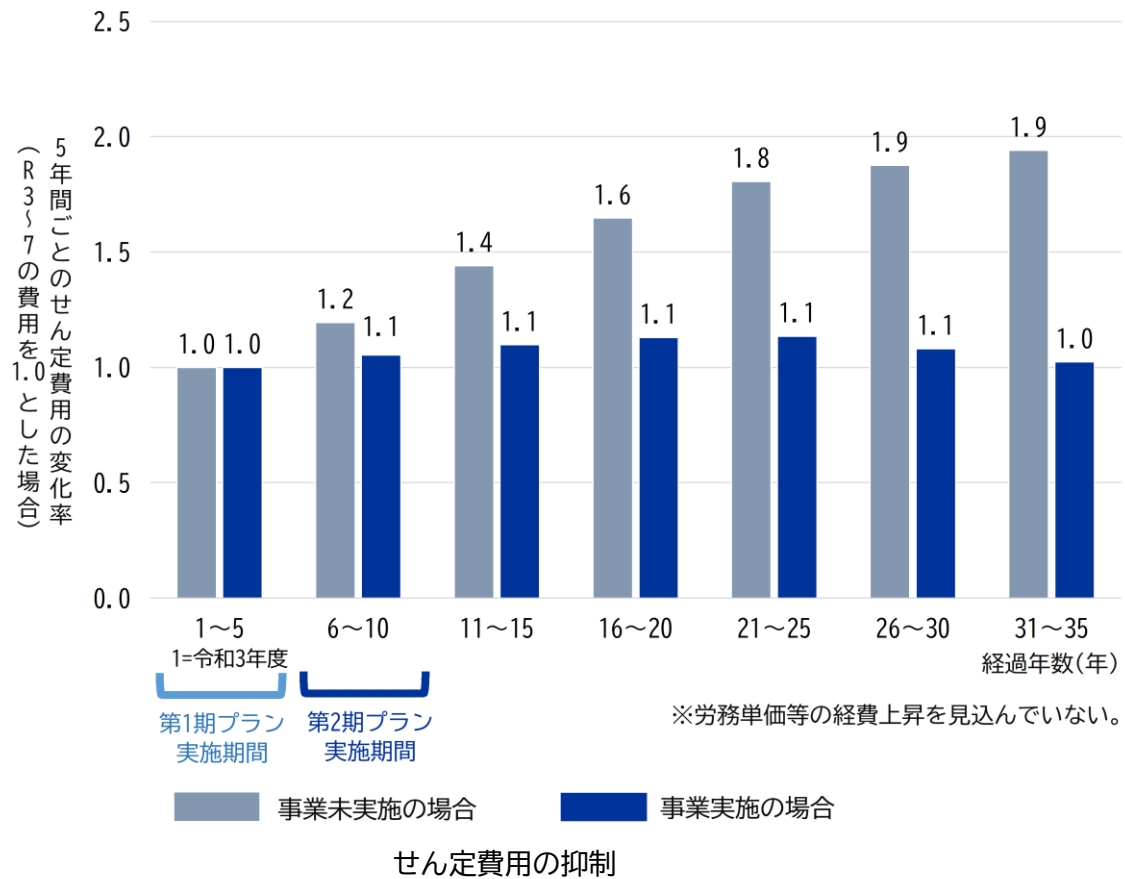
住宅地で植え替えた花木
西区台所樋ノ口町線



シンボル並木のせん定
千種区県道名古屋長久手線

管理コストの縮減

■ 街路樹再生によるせんだ定費用の抑制(実績値によるシミュレーション)(再掲)



■ 第1期プランの実績を基に将来のせんだ定費用を試算したもの

- ・事業を実施しない場合は、35年後には約2倍に増加。
- ・事業を実施する場合は、ほぼ横ばいの状態に抑制。

4 進め方（並木の評価）

街路樹再生にあたっては、路線ごとに樹木の状態や道路空間、沿道状況、法令等の適合状況などから判断し、「更新する並木」「撤去する並木」「保全・育成する並木」に区分します。

巡視・点検・診断により異常が発見されるなど、大木化・老木化等による事故リスクが増大している課題の多い路線は「更新する並木」として、法令等に適合しない路線は「撤去する並木」として、評価により優先順位を定め計画的に再生の取り組みを進めます。市を代表する道路などの「保全・育成すべき並木」については、適切なせん定管理等により健全な街路樹の保全・育成を図ります。

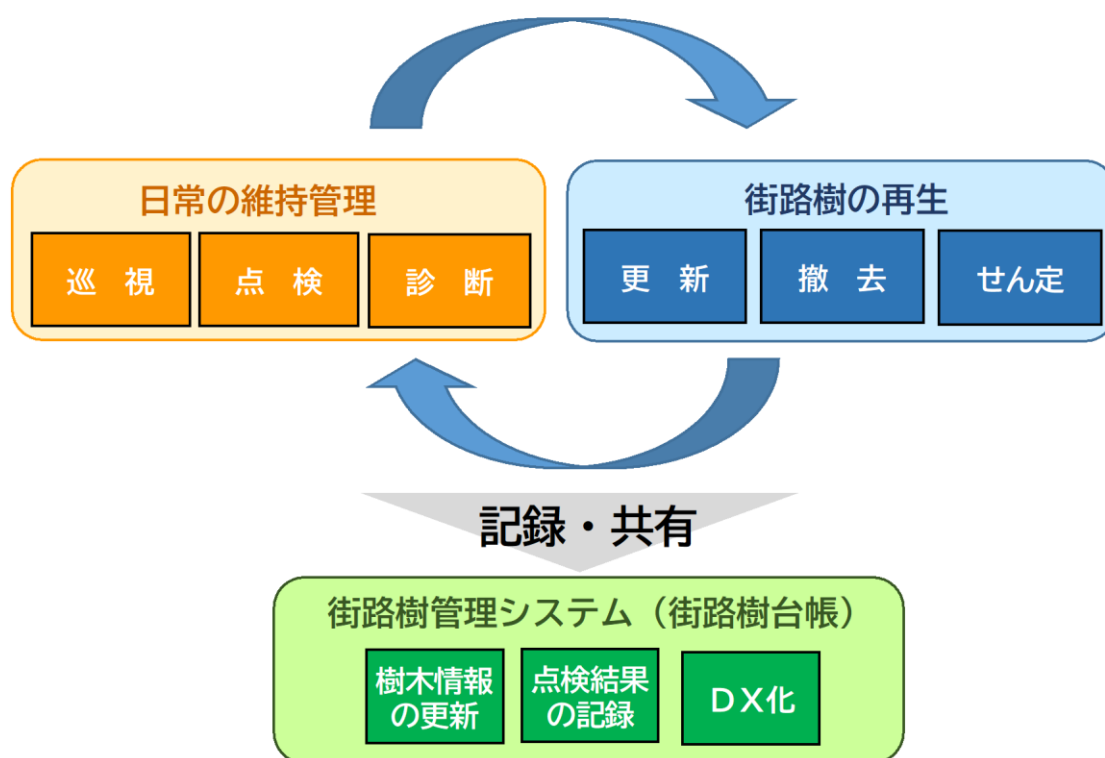
■ 更新対象路線の評価の視点

評価の視点
生育状態・環境が悪化し、倒木の危険性が高く、老木化等の課題が多い路線
道路空間や沿道状況とのバランスを超えて大木化した路線
市民に過度な影響を与えている路線 (民地側に多量の落ち葉がたまりやすい等)
地域要望、維持管理コストを考慮すべき路線 (地域からのまとまった要望がある、毎年定期的なせん定を要する樹種である等)

■ 撤去対象路線の評価の視点

評価の視点
歩道の有効幅員
生育状態・環境が悪化し、倒木の危険性が高く、老木化等の課題が多い路線
道路空間や沿道状況とのバランスを超えて大木化した路線
市民に過度な影響を与えている路線 (民地側に多量の落ち葉がたまりやすい等)
地域要望、維持管理コストを考慮すべき路線 (地域からのまとまった要望がある、毎年定期的なせん定を要する樹種である等)

■ 街路樹の維持管理サイクル



街路樹を最適な状態を維持し、事故を未然に防止するためには、適切な維持管理が必要です。維持管理の基本となるのは、日常的な巡視や定期的な点検です。巡視・点検は全ての街路樹に対して実施し、異常が認められた場合には診断を実施し、必要な措置を行います。点検・診断の結果や措置の内容は記録し、継続的な観察を行います。

参考 ライフサイクルの最適化

植栽から更新までの街路樹のライフサイクルを最適化することで街路樹を健全な状態に保ち、機能を最大化しつつトータルコストの抑制を図ります。

植栽後一定期間は、計画的な巡視・点検を行って街路樹の状態を把握し、適宜せん定等の必要な維持管理を行います。樹木の生長に伴い、せん定費などの維持管理費用は増加し、大木化・老木化の進行等により事故リスクも増大することから、果たすべき機能や役割を発揮できる健全な状態でなくなった場合（機能が低下した場合）には、一定年数を目途に更新を行います。

更新に際しては、歩道の幅員や沿道の状況等を考慮し道路空間に見合った樹種を選択するなど、機能やコストを考慮しながらライフサイクルの最適化を図ります。

■ 街路樹の機能と更新時期の考え方（成長の遅い樹種に更新した場合）

